

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
分担研究報告書

「重点的栄養介入が必要な在宅療養者に対する管理栄養士による効果的な栄養介入方法についての検証」

研究代表者 榎 裕美 愛知淑徳大学健康医療科学部 教授
研究協力者 馬場 正美 善常会リハビリテーション病院 管理栄養士
研究協力者 中川 啓子 とくしげ在宅クリニック 管理栄養士
研究協力者 豊田 典子 東三河栄養ケアステーション 管理栄養士
研究協力者 安田 和代 医療法人かがやき総合在宅医療クリニック 管理栄養士
研究協力者 熊谷 琴美 ながお在宅クリニック・小笠原内科 管理栄養士

研究要旨

本研究は、在宅療養者の栄養管理の充実と在宅療養の継続化のために、在宅療養となる対象者を、要介護度、原因疾患、低栄養状態、摂食・嚥下障害等で層別化し、層別ごとに栄養介入の方法を明確化し、重点的栄養ケアの標準化を行うことを目的とする。2年間継続研究の1年目は、管理栄養士の訪問による栄養食事指導を算定している療養者 109 名を登録し、後ろ向き研究として対象者背景、介入内容とそれに要した時間、訪問回数およびイベント発生（入院・入所・死亡）を調査した。アンケートの回収、データのスクリーニングは終了し、現在データ入力作業を行っている。

A. 研究目的

地域における低栄養問題は高齢者医療・介護に極めて大きな影響を与えるにも関わらず、未だ十分な手立てがなされているとは言えない。栄養介入が行われるときには、極度の栄養不良に陥っており、さらに ADL の低下、難治性の合併症を抱えるなど、栄養介入の効果が期待できないのが現状である。これらを回避するためには、居宅で療養する高齢者に対し、摂食・嚥下機能、食欲、身体状況また認知機能など、高齢者の低栄養問題を多面的な角度から多職種でスクリーニングしていく必要がある。さらにはその対処法を医療・介護政策上のシステムとして構築していく必要性がある。

本分担研究では、管理栄養士の訪問による栄養食事指導を算定している療養者を登録し、後ろ向き研究として対象者背景、介入内容とそれに要した時間、訪問回数およびイベント発生（入院・入所・死亡）を調査し、栄養ケアの実態を明らかにする。

B. 研究方法

愛知県および岐阜県の医療機関で、在宅診療を行っている医師の指示で栄養指導を実施する管理栄養士 5 名を研究協力者とし、過去 1 年間に管理栄養士による居宅療養指導を行った療養者を登録し、後ろ向きに調査する。

調査項目は、管理栄養士による居宅療養管理指導開始時の情報から次のア)～カ)

を抽出する（ア）基本情報：性、年齢、生活状況、介護度、イ）身体情報と栄養状態：身長、体重、栄養摂取ルート、ウ）嚥下機能の評価、エ）基本的 ADL、オ）併存疾患、カ）血液検査値）。

栄養ケアの内容について、1 回の訪問に対し、実施した栄養介入の内容を仕分け、介入に要した時間を調査する。また、保険料を算定しなかった訪問での介入内容（例えば月 2 回の算定条件を超えた場合）についても同様の調査を行う。また、効果検証の評価項目は次のキ）～コ）とする（キ）体重、ク）ADL、ケ）食事摂取量、コ）入院、入所、死亡などのイベント発生）。

倫理的配慮について

1. 研究等の対象とする個人の人権擁護

解析ならびに公表の際は個人または施設が特定できない形でされ、個人のプライバシー保護に努める。提供する試料およびそれに付随する臨床的情報などの個人情報、個人情報管理者（研究代表者）が責任をもって連結可能匿名化し、研究遂行者（研究代表者および研究分担者）に提供される。個人情報管理者は、コンピューターを用いて個人識別情報を管理し、その外部記憶装置に保存して厳重に管理する。連結可能匿名化されたデータベースを用いた集団的集計・解析や公表は、個人や事業所が特定できない形で行い、調査票やデータベースは鍵のかかる保管庫に保管し、個人情報やプライバシーの保護を行う。本研究で得たデータは、この研究の最終報告書の作成後、10 年間保管し、その経過以降に破棄する。データを破棄する場合は匿名のまま破棄する。なお、当該研究成果は、厚生労働科学研究費補助金による報告書、調

査対象者、協力者、市関連団体向け報告用パンフレットとして一般に普及啓発されると同時に、学会口頭発表や論文発表を行う。

2. 研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

療養者には、管理栄養士を通じて、研究計画、方法および個人情報の保護など文書において説明し、任意の意思を尊重の上、文書による同意を得る。療養者が既に死亡している症例については、元介護者に同意を得る。

3. 研究等によって生ずる個人への不利益並びに危険性

後ろ向き調査であるため、療養者への侵襲性のある項目が含まれない。

4. 倫理委員会の承認

平成 29 年 11 月に愛知淑徳大学健康医療科学部倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

各施設別の登録者数を表 1 に示した。管理栄養士の訪問による栄養食事指導を算定している療養者 109 名を登録した。

D. 考察

対象者の特性は現在集計中であるが、小児から高齢者のライフステージ、また糖尿病、腎臓病などの疾患等、多岐にわたっている。対象者の背景、介入内容、訪問回数および効果を検証し、在宅における効果的な重点的栄養介入法と訪問回数を提言するため、データの取り扱いや分割法など検

討が必要である。

E. 結論

管理栄養士の訪問による栄養食事指導を算定している療養者109名を登録し、後ろ向き研究として対象者背景、介入内容とそれに要した時間、訪問回数およびイベント発生（入院・入所・死亡）を調査した。アンケートの回収およびデータのスクリーニングは終了し、現在データ入力の作業を行っている。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

該当なし

表1 協力施設名と施設別登録者数

協力施設	施設長名	施設長役職	管理栄養士名	協力施設所在地	協力者数
善常会リハビリテーション病院	岡田 温	理事長・院長	馬場 正美	愛知県名古屋市	55名
とくしげ在宅クリニック	高林 新	理事長	中川 啓子	愛知県名古屋市	17名
東三河栄養ケアステーション	豊田 典子		豊田 典子	愛知県豊川市	4名
ユタカ医院	樋口 禮治	院長	豊田 典子	愛知県豊川市	東三河栄養ケアステーションに含まれる
大橋医院	大橋 茂樹	院長	豊田 典子	愛知県豊川市	
ただだクリニック	武田 正志	理事長	豊田 典子	愛知県豊川市	
医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック	市橋 亮一	理事長	安田 和代	岐阜県羽島郡岐南町	22名
ながお在宅クリニック	長尾 強志	理事長	熊谷 琴美	愛知県江南市	6名
小笠原内科	小笠原 文雄	院長	熊谷 琴美	岐阜県岐阜市	5名